



ひろさわ ゆうこ
廣澤 裕子 さん(蒔田)

さまざまな撮影をしていることを知りました。今後、聖地巡礼などで盛り上がるのが楽しみです。

ロケーションサービスとは、ドラマや映画などを市に誘致し、撮影場所やそれに付随する支援を行うサービスです。

今回は、その活動に携わる民間ボランティア団体「筑西市活性化プロジェクトちつくタッグ」のリーダー白井佐智子^{しらいさちこ}さんに話を伺いました。

ロケがもたらす経済効果

「これまで、筑西市内でロケーションサービスをとおして、飲食店・ホテル・レンタル業界に6千万円程の経済効果をもたらしています」と教えてくれる白井さん。また、映画などでは、撮影協力を「筑西市」と表示が出来ることで、宣伝効果もあります。例えば、現在使用されていない

「ちつくタッグ」×筑西市 官民一体でつなぐロケ支援



関城支所の議場は、今や裁判所の撮影場所として映像制作業界内で認知され、多くの撮影に使用されています。昨年は9件の撮影が行われ、その中にはみなさんが見たことのあるような作品も含まれています。

ロケ隊の胃袋をつかむ

撮影の規模によっては、総勢300人を超えるロケ隊が撮影に来ることもあるそうで結成当初は苦労もあつたそうです。

「結成して今年で14年目になりますが、当初は映像制作の現場に慣れている人は少なく、アシスタントディレクターの経験があつた自分が中心となり試行錯誤しながら取り組みました。地元の飲食店には深夜や早朝指



ちつくタッグリーダー 白井さん



大型ロケ時のケータリング

定のお弁当の手配、突然のキャンセルなど、業界内の厳しいお願いを理解してもらうまでが大変でした」と白井さんは当時は振り返ります。

食事の提供には工夫も欠かせないそうで、連日撮影が続く場合は、メニューが重ならないようにしたり、旬の特産品を差し入れたりすることで市をPRするほか、俳優陣の食事の好みを調べて提供するそうです。

官民一体の強み

市内で撮影した「ゴジラ-1.0」や「月の満ち欠け」の時に使用した台本や現場写真を企画展で展示し、ファンの来訪につなげることもできたそうです。これらの撮影前から撮影後まで多岐にわたる支援について「過酷な撮影時でも、市民のみなさんのご理解や協力がスタッフの活力になっていきます。肅々と調整してくれる『官』とスピード感と人脈を使って積極的に攻める『民』。この



ちくロケ！
Web サイト



ロケ地紹介の
様子はこちら



ゴジラ - 1.0 撮影時の現場



関城支所の議場の様子

取材を終えて

市がロケ地の照会や問い合わせの窓口となり、申請手続きを行うのに対し、ちつくタッグが食事や宿泊場所の手配をすることで、より良いロケーションサービスを提供できるよう協力している姿が伝わってきました。地域の協力を得ながら、ロケ支援を続けるちつくタッグを見かけたら、ぜひ声をかけてください。

【問】商工観光課（本庁3階）

☎ 20・1160